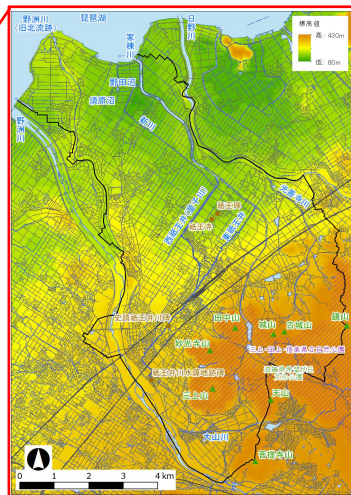


12 野洲市文化財保存活用地域計画【滋賀県】

【計画期間】 令和8～17年度
(10年間)

【面積】 80.15km²
【人口】 約5万人



【主な文化財関連施設】



野洲市歴史民俗博物館
(銅鐸博物館)



弥生の森歴史公園

【関連計画等】 日本遺産「琵琶湖とその水辺景観
ー祈りと暮らしの水遺産」(H30年度追加)

■ 指定等文化財件数一覧

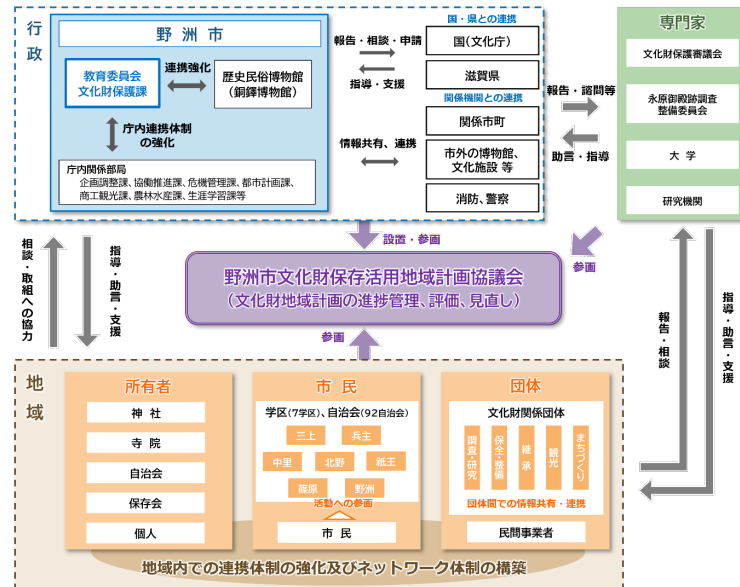
(令和7年3月現在)

類型		国				県		市		合計
		指定	選定	選択	登録	指定	選択	指定	選択	
有形文化財	建造物	14	—	—	0	5	—	16	—	35
	絵画	1	—	—	0	2	—	9	—	12
	彫刻	21	—	—	0	4	—	26	—	51
	工芸品	1	—	—	0	2	—	4	—	7
	書跡・典籍	0	—	—	0	4	—	4	—	8
	古文書	1	—	—	0	0	—	0	—	1
	考古資料	0	—	—	0	0	—	1	—	1
	歴史資料	0	—	—	0	0	—	3	—	3
無形文化財		0	—	0	0	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	—	—	0	0	0	0	1	1
	無形の民俗文化財	1	—	0	1	0	(1)	(1)	(1)	7
記念物	遺跡(史跡)	2	—	—	0	0	—	4	—	6
	名勝地(名勝)	1	—	—	0	0	—	1	—	2
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	0	—	—	0	0	—	0	—	0
	文化的景観	—	0	—	—	—	—	—	—	0
伝統的建造物群		—	0	—	—	—	—	—	—	0
合計		42	0	0	1	17	3	71	134	

注: () は重複している件数

指定等文化財は、134件
未指定文化財は、1,418件把握

■ 推進体制



■ 歴史文化の特性

三上山信仰と遺跡群が伝える山との共生

近江富士と称される三上山は、琵琶湖の対岸からも眺望でき、神宿る山「み神山」として、人々の信仰や暮らしに深い関わりを持ってきた。大岩山丘陵には、弥生時代の終わりに共同社会の祭器「銅鐸」が24口も埋められていた。三上山は、自然との調和・共生の象徴として、日々の生活で必ず一度は仰ぎ見る存在である。

道がつなぐ交流と華開く仏教文化

本市は、街道や琵琶湖、そして野洲川をとおして様々な文物を受け入れてきた。中でも仏教の教えは、人々の安寧への願いと祈りであり、本市の歴史文化を通底する心の原点である。

湖・川が育む水との暮らし

本市は、野洲川と日野川を利用した水田農耕や琵琶湖の漁労を基盤として、水との深い関わりの中で歴史文化を育んできた。一方、大切なものを水害で失う経験も重ねてきた。恩恵や畏敬の思いは、湖国の祭礼行事や食文化をはぐくみ、危機管理の知恵として次の世代へ受け継がれている。



三上山と野洲のまちなみ



大岩山銅鐸



永原御殿跡と朝鮮人街道



↑古瓦(福林寺遺跡)

↑木造十一面観音立像(蓮長寺)



御田植祭 (三上)



鮒ずしの鮒の漬け込み(喜蒲)

1
文化財の
価値・魅力を
明らかにし、
文化財を
まもる
『土台づくり』

2
文化財の魅力を
活かした
『地域づくりへ
の貢献』

3
文化財を通じて
人や地域が
つながり
『みらいへと
紡ぐ』

- 文化財の総合把握調査が不足している。
- 文化財の価値を高める調査、研究の充実が必要である。

- 史跡・名勝の保存整備の計画的な実施が必要である。
- 指定等文化財の保存整備または保存修理の計画的、効率的な実施が必要である。等

- 防災・防犯に対する市民意識の醸成及び連携体制の構築が必要である。等

- 公開施設及び文化財収蔵施設の老朽化への対応及び整備の検討が必要である。
- 市内外への効果的な情報発信・公開PRが不十分である。等

- 観光との連携及び文化財を活かした新たな観光施策の検討が必要である。
- 歴史文化や文化財を活かした地域づくりが必要である。等

- 歴史文化や文化財の継承及び担い手不足などへの対応が不十分である。
- 地域や子どもへ向けた教育機会が不足している。

- 文化財に係る包括的な連携体制の構築が不十分である。
- 保存・活用に係る財源の確保及び支援策の検討を行う必要がある。等

01文化財を『理解する』

- i 文化財の総合把握調査の実施
- ii 文化財の価値を高める調査、研究の充実

02文化財を『保つ』

- i 史跡・名勝の保全整備の計画的な推進
- ii 指定等文化財の保存整備または保存修理の計画的、効率的な推進 等

03文化財を『守る』

- ii 災害に備えた市民意識の醸成及び連携体制の構築 等

04文化財を『共有する』

- i 公開施設及び文化財所蔵施設の老朽化への対応及び整備の推進
- ii 市内外への効果的な情報発信・公開PRの推進 等

05文化財を『活かす』

- i 観光振興との連携強化及び文化財を活かした新たな観光施策の検討
- iii 歴史文化や文化財を活かした地域づくりの推進 等

06文化財を『継ぐ』

- i 歴史文化や文化財の継承と担い手の育成、後継者の確保
- ii 地域や子どもへ向けた教育機会の創出

07文化財を『支える』

- i 文化財に係る包括的な連携体制の構築
- iii 財源の確保及び支援策の検討 等



1-1市民などと連携した文化財の総合把握調査の実施

地域や関係団体、専門家などと連携し、市内の文化財の総合的な把握や詳細調査を推進する。

- 取組主体：市民、所有者、団体、専門家、行政
- 計画期間：R8～17



2-1.国史跡永原御殿跡保存整備

国史跡永原御殿跡について継続的な発掘調査（保存目的の内容確認調査）や公有地化・整備・活用を推進する。

- 取組主体：所有者、専門家、行政
- 計画期間：R8～17



4-6.歴史講座や講演会、史跡探訪、発掘調査体験の実施

歴史民俗博物館（銅鐸博物館）での歴史講座や古文書を読む会、講演会の開催、史跡探訪のほか、国史跡永原御殿跡などでの発掘調査体験を通じ、実際に市の文化財に触れながらその価値を正しく伝える取組を実施する。

- 取組主体：市民、所有者、団体、専門家、行政
- 計画期間：R8～17



5-9.文化財を活かした地域活性化
銅鐸をはじめ国史跡永原御殿跡や大岩山古墳群など本市を代表・象徴する文化財を中心に、地域づくりの観点からの活用や地域活性化及び地域の魅力向上に資する取組を推進する。

- 取組主体：市民、所有者、団体、行政
- 計画期間：R13～17



6-8.歴史教育の拡充

子どもや親世代が野洲について知る機会の充実を図るため、地域と連携し、桜生史跡公園などにて歴史や文化財、自然環境などの幅広い視点での歴史教育を推進する。

- 取組主体：市民、所有者、団体、行政
- 計画期間：R8～17